

気管支喘息児の学校生活の充実度に関するアンケート調査

(分担研究：長期療養児の心理的問題に関する研究)

豊島協一郎、土居悟、井上寿茂、高松勇、村山史秀、
亀田誠、林田道昭*

要約：気管支喘息児、その他の慢性疾患児、急性疾患児に対して病院受診時にアンケート調査を実施し、学校生活の充実度を調査したところ、コントロールの良好な中一軽症の喘息児では、他の慢性疾患児より積極的に学校生活に参加出来ているようであった。重症喘息児については改めて調査が必要である。

見出し語：気管支喘息、慢性疾患、学校生活

方法と対象 気管支喘息児の学校生活における充実度を調査する目的で表一に示すアンケート調査を実施した。対象は小学校4年一中学校3年の児童・生徒で、羽曳野病院アレルギー小児科通院中の喘息児（以下喘息と略）、大阪府立病院小児科通院中の喘息以外の慢性疾患児（慢性と略）、大阪府立病院小児科を受診した急性疾患児（急性と略）、であり、調査期間は1993年7月一11月である。

結果と考察 喘息は98人で、日本アレルギー学会重症度基準で中等症29人、軽症57人、1年間発作なし11人、不明1人であった。慢性は47人で、中枢神経疾患14人、腎疾患9人、心身症6人、肥満5人などであった。急性は43人で、胃腸炎5人、頭痛、胸痛、腹痛8人、感冒5人など様々であった。

学年は平均で、喘息6.8年、慢性6.0年、急性6.5年で、喘息と慢性に有意差を認めた。

学業成績は表二の通りで、慢性の成績が悪く、慢性と急性の間に有意差を認めた。好きな科目は喘息では体育(24.5%)、社会(16.3%)、理科(11.2%)、音楽(10.2%)が多く、慢性では算数・数学(27.

表一 現在の成績はどの程度ですか

	良い	普通	悪い
喘息	18 (19)	61 (65)	15 (16)
慢性	2 (4.4)	33 (73)	10 (22)
急性	10 (24)	29 (69)	3 (7.1)

人 (%) * p<0.05 ** p<0.01

7%)、体育(17.0%)、社会(10.6%)、音楽(10.6%)、急性では体育(30.2%)、算数・数学(16.3%)、音楽(14.0%)、社会(9.3%)が多く、喘息と急性で体育が第1位であるのに反し慢性では算数・数学が第1位であった。嫌いな科目は喘息では算数・数学(24.5%)、国語(23.5%)、社会(16.3%)、慢性では算数・数学(25.5%)、国語(21.3%)、社会(21.3%)、理科(17.0%)、急性では算数・数学(20.9%)、国語(20.9%)、社会(18.6%)、英語(11.6%)で各群に特徴はなかった。

学校欠席は年間平均喘息8.9日、慢性8.7日、急性3.1日で当然のことながら喘息と慢性に多かったが、有意差はなかった。

大阪府立羽曳野病院アレルギー小児科：Dept. of Pediatric Allergy, Osaka Prefectural Habikino Hospital

*大阪府立病院小児科：Dept. of Pediatrics, Hospital of Osaka Prefecture

体育授業への参加状況は表-3の通りで、慢性で見学が多く、喘息や急性との間に有意差があり、喘息と急性とは差がなかった。

表-3 たいそう（体育）の授業への参加は

	いつも参加する	時々見学する	殆ど見学である
喘息	76 (78)	21 (22)	0 (0)
慢性	35 (74)	9 (19)	3 (6.4)
急性	38 (88)	5 (12)	0 (0)

生徒会の役を引き受けている状況は表-4の通りで、喘息が高く、慢性が低く、急性はその中間であり、喘息と慢性とに有意差を認めた。

表-4 現在生徒会やクラスの役をしていますか

	はい	いいえ
喘息	40 (41)	57 (59)
慢性	9 (21)	33 (79)
急性	15 (35)	28 (65)

通院していることを学校の担任教師が知っているかどうかでは表-5の通りで、当然のことではあるが、急性では50%しか知らず、喘息と慢性では80%余が知っており有意差があった。

表-5 あなたが病院に通っていることを担任の先生は知っていますか

	はい	いいえ	分からない
喘息	80 (84)	6 (6.3)	9 (9.5)
慢性	39 (89)	3 (6.8)	2 (4.5)
急性	22 (52)	18 (43)	2 (4.8)

保健室の利用状況は表-6の通りで、慢性では保健室の利用が多く、喘息と急性では少なかった。慢性と急性には有意差があった。

表-6 保健室を利用したことがありますか

	よくある	まれにある	ない
喘息	5 (5)	50 (52)	42 (43)
慢性	8 (17)	22 (47)	17 (36)
急性	0 (0)	27 (69)	12 (31)

病気のことで嫌な思いをしたり、からかわれたりした経験は表-7の通りで、慢性に多かったが有意差はなかった。病気のことで友人から励まされた経験は表-8の通りで、喘息に多く、喘息と急性で有意差があった。

以上主として差のみられた項目について結果を紹介し

表-7 病気のことで学校で嫌な思いをしたり、からかわれたりしたことがありますか

	はい	いいえ	分からない
喘息	8 (8.3)	79 (82)	9 (9.4)
慢性	8 (17)	36 (77)	3 (6.3)
急性	2 (5.1)	36 (92)	1 (2.6)

表-8 病気のことで学校の友人から励まされたことがありますか

	はい	いいえ	分からない
喘息	29 (30)	53 (55)	15 (15)
慢性	11 (24)	26 (57)	9 (20)
急性	6 (15)	31 (79)	2 (5.1)

たが、全般的にみて、喘息は慢性に比べて急性に近く、学校生活の充実度は比較的高いと言える。今回の調査対象となった喘息は外来定期通院中の児童・生徒で、大部分軽症であったことがこのような結果をもたらしたと言える。重症児、難治児については改めて調査する予定であるが、定期通院によって良好にコントロールされている場合、喘息児の学校生活の充実度への障害は、学校欠席日数を除いて比較的少なく、生徒会の役を積極的に受けていること、友人の励ましを受けていることなど、積極的な学校生活への参加の実態がみられた。

表-1 学校生活満足度（調査質問書）

あなたに当てはまる項目を選び○で囲んで下さい。()の中にはご記入下さい。
 姓名() 学年(小、中、年) 性別(男、女)
 学校は楽しいですか 楽しい、楽しくない、どちらでもない
 時に何が楽しいですか ()
 好きな科目はありますか はい(科目名) 、いいえ
 嫌いな科目はありますか はい(科目名) 、いいえ
 現在の成績はどの程度ですか 良い、普通、悪い
 休み時間はどうしていますか 大風気遣い、大風一人である、その他()
 担任の先生に親しみを感じますか はい、いいえ、どちらでもない
 好きな先生がいますか はい、いいえ、分からない
 勉強で分からないことがある時先生に質問できますか はい、特に出来る、いいえ
 クラブ活動に参加していますか はい(クラブ名) 、いいえ
 クラブは楽しいですか はい、いいえ、どちらでもない
 昨年度(前年度)の学校生活はどの程度ですか 約()日
 そのうち病状へ合うために欠席したのは何日ですか 約()日
 たいそう(体育)の授業への参加は
 いつも参加する、時々見学する、殆ど見学である
 プールへの参加は制限されますか 制限なし、日印をつけて参加、参加させて貰えない、制限されているが時々練習
 学校に気の合う友人は何人いますか 約()人
 現在生徒会やクラスの役をしていますか はい(役名) 、いいえ
 あなたが病院に通っていることを担任の先生は知っていますか はい、いいえ、分からない
 先生(学校)から行事(遠足、運動会、音楽訓練など)への参加を休むように言われたことがありますか はい、いいえ
 先生(学校)から部活(学芸会、林間学校や音楽行などの宿泊行事)への参加を休むように言われたことがありますか はい、いいえ
 保健室を利用したことがありますか よくある、まれにある、ない
 学校でよく薬をのんだり吸入したりしますか はい、まれにある、いいえ
 病気のことで学校でいやな思いをしたり、からかわれたりしたことがありますか はい、いいえ、分からない
 病気のことで学校の友人から励まされたことがありますか はい、いいえ、分からない
 学習塾へは通っていますか はい、いいえ
 ピアノ、絵、習字などの習い事をしていますか はい、いいえ
 スキー、野球クラブなど学校以外で運動をしていますか はい、いいえ
 今学校や先生に勧奨することがあれば、それを三つ以内で書いて下さい



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:気管支喘息児、その他の慢性疾患児、急性疾患児に対して病院受診時にアンケート調査を実施し、学校生活の充実度を調査したところ、コントロールの良好な中一軽症の喘息児では、他の慢性疾患児より積極的に学校生活に参加出来ているようであった。重症喘息児については改めて調査が必要である。